

# 医師国家試験改善検討委員会について

## 1. 趣 旨

- 医師国家試験は、医師として具有すべき知識及び技能を問う試験である。厚生労働省では、国家試験として妥当な範囲と適切なレベルを保つため、これまで定期的に国家試験の改善に努めてきている。
- 現行の医師国家試験は、「医師国家試験改善検討委員会報告書」（平成11年4月）を踏まえ実施されているところであるが、現行の国家試験の妥当性を評価するとともに、同報告書で今後改善すべきと指摘された事項等について検討を行う必要がある。
- このため、有識者からなる「医師国家試験改善検討委員会」を開催し、医師国家試験の改善事項について取りまとめを行うこととする。

## 2. 主な検討課題

- (1) 現行の国家試験の評価について
- (2) 本格的なプール制への移行について
- (3) 「医師国家試験改善検討委員会報告書」（平成11年4月）において今後改善すべきと指摘された事項等について
- (4) その他について

## 3. メンバー

- 相川 直樹（慶應義塾大学医学部教授）
- 相澤 好治（北里大学医学部教授）
- 伊藤 澄信（順天堂大学医学部教授）
- 木村 利人（早稲田大学人間科学部教授）
- 黒川 清（東海大学総合医学研究所長）
- 小泉 直子（兵庫医科大学教授）
- 齊藤 英彦（国立名古屋病院長）
- 櫻井 秀也（日本医師会常任理事）
- 名川 弘一（東京大学医学部教授）
- 伴 信太郎（名古屋大学医学部教授）
- 前川 眞一（東京工業大学社会理工学研究科教授）
- 宮坂 勝之（国立成育医療センター一部長）

（○は座長）

#### 4. 予 定

- 平成14年度中に「医師国家試験改善検討委員会」として報告書取りまとめ、医道審議会医師分科会に報告する。
- また、同委員会における報告書を踏まえ、平成15年度中に医師国家試験出題基準（ガイドライン）の改定を行う。
- 平成17年の医師国家試験から同報告書に基づく改善事項及び新しい医師国家試験出題基準（ガイドライン）を適用する。

#### －開催状況－

回数	開催日	議 事 内 容
第1回	平成14年 7月16日	医師国家試験の現状と改善のあり方について
第1回WG	8月30日	現行の医師国家試験制度の評価について プール制について
第2回WG	10月7日	現行の医師国家試験制度の評価について プール制について
第3回WG	11月15日	現行の医師国家試験制度の評価について プール制について 受験回数の制限について 実技試験(OSCE)について
第2回	12月16日	医師国家試験の改善のあり方について
第4回WG	平成15年 1月30日	禁忌肢の取扱いについて
第3回	2月28日	医師国家試験改善検討委員会報告書案について
	4月17日	報告書公表

## 医師国家試験改善検討委員会委員

- |       |     |                   |
|-------|-----|-------------------|
| 相川    | 直樹  | 慶應義塾大学医学部教授       |
| 相澤    | 好治  | 北里大学医学部教授         |
| 伊藤    | 澄信  | 順天堂大学医学部教授        |
| 木村    | 利人  | 早稲田大学人間学部教授       |
| ○黒川   | 清   | 東海大学総合医学研究所長      |
| 小泉    | 直子  | 兵庫医科大学教授          |
| 齋藤    | 英彦  | 国立名古屋病院長          |
| 櫻井    | 秀也  | 日本医師会常任理事         |
| 名川    | 弘一  | 東京大学医学部教授         |
| 伴     | 信太郎 | 名古屋大学医学部教授        |
| 前川    | 眞一  | 東京工業大学社会理工学学研究科教授 |
| 宮坂    | 勝之  | 国立成育医療センター一部長     |
| ○は委員長 |     | (五十音順、敬称略)        |

# 医師国家試験改善検討委員会報告書（概要）

## I. 趣 旨

臨床研修の必修化など医師の資質の向上に向けた取り組みが行われている中、改めて現状の医師国家試験を評価し、医師国家試験の改善を行うため、平成14年7月に「医師国家試験改善検討委員会」を再開し、ワーキンググループでの審議を含め、計7回の審議を行い、今般改善事項を取りまとめた。なお、これらの改善事項は平成17年（第99回）の試験から適用することが望ましい。

## II. 医師国家試験改善検討委員会報告書の概要

### 1. 平成17年（第99回）の試験からの改善事項

#### (1) 出題数・出題内容

出題数は引き続き500題とし、出題内容としては基本的な診療能力に関する出題の充実を図りつつ、医の倫理・患者の人権、医療面接等にも配慮した出題にも考慮する。

臨床実地問題は臨床実習の成果が反映される問題を出題する。

試験設計表（ブループリント）により各項目ごとの規定数を引き続き規定する。

#### (2) 合否基準

合否基準は引き続き現行の合否基準を踏襲する。具体的には、必修問題に対しては絶対基準、一般問題・臨床実地問題に対しては各々平均点と標準偏差を用いる相対基準を用いる。また、禁忌肢を選択した場合はこれまでどおり合否の判断に採用する。

#### (3) 試験問題の公募、プール制の導入、試験問題の回収

公募問題は採点対象として出題することは十分可能であると評価されることから、試験問題や視覚素材の公募範囲を臨床研修病院や日本医師会等に適宜拡大するとともに、ブラッシュアップ体制を強化・効率化を行い、当面、約1万題程度（将来的には数万題）の試験問題を蓄積し、段階的にプール制へ移行する。

また、良質な試験問題を繰り返し出題するために引き続き試験問題の回収を行う。

#### (4) 試験の早期化

臨床研修の必修化を踏まえ、医師国家試験を2月第3週頃迄に実施し、合格発表を3月中に行う。

### 2. 改善する方向性が定まった事項

受験回数制限は将来的な導入に向けて具体的な方策を検討する。

実技試験（OSCE）は卒前教育における普及等を踏まえて導入する。

### 3. 関係機関への要請事項

全国の大学医学部・医科大学に対して、試験問題の公募への協力を依頼するとともに、臨床実習等の評価法として実技試験（OSCE）の実施の拡充や臨床実習前の共用試験の充実を要請する。また、試験の早期化に対する協力を要請する。

## 医道審議会医師分科会医師国家試験出題基準改定部会について

### 1 趣旨

医師国家試験出題基準は、医師国家試験の出題にあたり、妥当な範囲とレベルを設定するために、昭和52年に初めて作成され、以来概ね4年ごとの改定を経てきている。

今般、4月17日に報告された医師国家試験改善検討委員会報告書を参考に平成17年実施の医師国家試験に向けた出題基準の改定と併せ、各項目・評価領域ごとの出題数を規定したブループリント（試験設計表）の作成が必要となっていることから、標記部会で検討を行うものである。

### 2 位置付け

医道審議会医師分科会の部会の一つ

### 3 検討内容

医師国家試験改善検討委員会報告書に基づき、以下の検討を行う。

- ① 出題基準の改定
- ② ブループリントの作成

### 4 スケジュール

現在、部会の設置に向けた準備を行っている。